

株式会社サンゲツ

2023 年 3 月期決算および新中期経営計画説明会
決算説明テキスト

sangetsu

イベント概要

[企業名]	株式会社サンゲツ		
[企業 ID]	8130		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期決算および新中期経営計画説明会		
[決算期]	2023 年度 通期		
[日程]	2023 年 5 月 24 日		
[ページ数]	80		
[時間]	10:00 – 11:32 (合計：92 分、登壇：65 分、質疑応答：27 分)		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	安田 正介（以下、安田）	
	取締役 財務経理部長	助川 達夫（以下、助川）	
	執行役員 管理担当	近藤 康正（以下、近藤）	
	広報 IR 課	白戸 良子（以下、白戸）	

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結損益計算書

	2022年3月期	2023年3月期				(億円、%)
	実績 (A)	実績 (B)	前期比 (B-A, B/A)	2月10日公表 通期予想 (C)	達成率 (B/C)	
売上高	1,494.8	1,760.2	+265.4 (+17.8%)	1,740.0	101.2%	
売上総利益 (利益率)	399.6 (26.7%)	563.7 (32.0%)	+164.1 (+41.1%)	560.0 (32.2%)	100.7%	
営業利益 (利益率)	79.5 (5.3%)	202.8 (11.5%)	+123.2 (+154.8%)	200.0 (11.5%)	101.4%	
経常利益	82.0	206.9	+124.8 (+152.2%)	205.0	100.9%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.7	140.0	+137.2 (一)	135.0	103.7%	

増収・増益

売上高・各利益：全て過去最高を更新

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

4

安田： それでは私から、2022 年度決算に関して、最初にご説明を申し上げます。

2022 年度決算内容ですが、売上高 1,760 億円、売上総利益 563 億 7,000 万円、営業利益 202 億 8,000 万円、経常利益 206 億 9,000 万円、そして当期純利益 140 億円という結果となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2023年3月期 決算概要

1. 効率性・収益性

		売上高純利益率	総資産回転率	財務レバレッジ
・ ROE	: 15.3%	8.0%	× 1.1回	× 1.7倍
・ ROIC	: 16.5%			
・ CCC	: 77.1日			
・ 売上高営業利益率	: 11.5%			
・ EBITDA	: 246.8億円			

2. 安全性

- ・ 自己資本比率 : 58.2%
- ・ 負債比率 : 71.7%
- ・ 流動比率 : 185.3%
- ・ 現金及び現金同等物 : 247.6億円
- ・ Net Cash : 184.0億円

3. 成長性

- ・ 売上高増収率 : 17.8%
- ・ 営業利益増益率 : 154.8%

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

7

簡単に要点だけをご説明申し上げますと、ROEとして15.3%、ROICが16.5%、Cash Conversion Cycleは77.1日、売上高営業利益率11.5%、EBITDAとして246億8,000万円。自己資本比率58.2%、負債比率71.7%、流動比率185.3%。そして期末の現金および現金同等物が247億6,000万円、Net Cash184億円という結果となっております。

Cash Conversion Cycle77.1日が目標としておりました65日に10日オーバーしている点、そしてNet Cash184億円がキャッシュとして大きすぎるという2点を除きますと、おおむね大変良好な結果を残せたと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の推移

売上高・各利益：全て過去最高を更新



sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

8

過去との数字をご覧いただきますと、営業利益 202 億 8,000 万円は、過去 1996 年度を超えまして、26 年ぶりの史上最高益という数字でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント別売上高・営業利益

収益認識に関する会計基準適用:有

事業セグメント	2022年3月期	2023年3月期 (億円、%)	
	実績 (A)	実績 (B)	前期比 (B-A, B/A)
インテリアセグメント 売上高	1,230.4	1,419.4	+189.0(+15.4%)
壁 装 材	623.3	735.0	+111.6(+17.9%)
床 材	448.8	521.5	+72.7(+16.2%)
ファブリック	86.1	95.1	+9.0(+10.5%)
そ の 他	72.1	67.7	▲4.3(▲6.0%)
営業利益	90.9	205.0	+114.0(+125.4%)
エクステリアセグメント 売上高	58.2	62.9	+4.7(+8.1%)
営業利益	5.4	4.5	▲0.9(▲16.8%)
海外セグメント 売上高	159.3	216.7	+57.4(+36.0%)
営業利益	▲18.2	▲10.6	+7.5(-)
スペースクリエーションセグメント 売上高	65.7	77.4	+11.6(+17.8%)
営業利益	1.3	3.9	+2.5(+179.9%)
セグメント間取引調整(売上高)	▲18.9	▲16.3	+2.5(-)
セグメント間取引調整(営業利益)	0.0	0.0	▲0.0(-)
連結売上高	1,494.8	1,760.2	+265.4(+17.8%)
連結営業利益	79.5	202.8	+123.2(+154.8%)

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

9

そしてセグメント別の状況を見てまいりたいと思います。

インテリアセグメントについては売上高 1,419 億 4,000 万円、営業利益として 205 億円という結果となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



インテリアセグメント 国内建設市場の状況

	新築		リフォーム	
	前期比（2022年1月～12月）		前期比（2022年4月～2022年12月）	
住宅市場 	新設住宅着工統計		国土交通省 建築物リフォーム・リニューアル調査（受注金額）	
	新設住宅着工戸数	新設住宅着工床面積	住宅合計	▲2.5%
	+0.4%	▲2.3%	戸建て	+2.2%
	(持家 ▲11.3%、賃貸 +7.4%)		共同住宅	▲7.0%
非住宅市場 	新築		リニュアル	
	前期比		前期比（2022年4月～2022年12月）	
	民間非居住建築物着工床面積（使途別、倉庫・工場を除く）		建築物リフォーム・リニュアル調査（受注金額）	
	2022年度（4～3月）	▲6.5%	非住宅合計	▲4.1%
	2021年度	+4.2%	飲食	▲30.3%
	2020年度	▲11.8%	物販	▲13.4%
	2019年度	▲7.4%	医療	▲13.6%
			福祉	2.5%
			宿泊	+15.6%
			事務所	▲0.7%

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

11

主力のインテリアセグメントの内訳をご説明申し上げます。最初に、インテリアセグメントが立脚をしております国内建設市場の昨年度の状況をざっと振り返ってみますと、住宅市場の新築は、住宅着工戸数 0.4%増と戸数では増加しましたが、着工床面積としては 2.3%の減少。リフォームも去年の 12 月までの数字は 2.5%の減少と、住宅市場は両方ともマイナスでありました。

一方、非住宅市場については、新築に関しては 2020 年度の着工の大幅なマイナスが時間差をもって内装関連工事に影響を及ぼしたことで、22 年度の内装工事の市場としてはマイナスであったと認識をしております。非住宅リニュアルも 12 月までの数字ですが、マイナス 4.1%の減少という数字が発表されております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



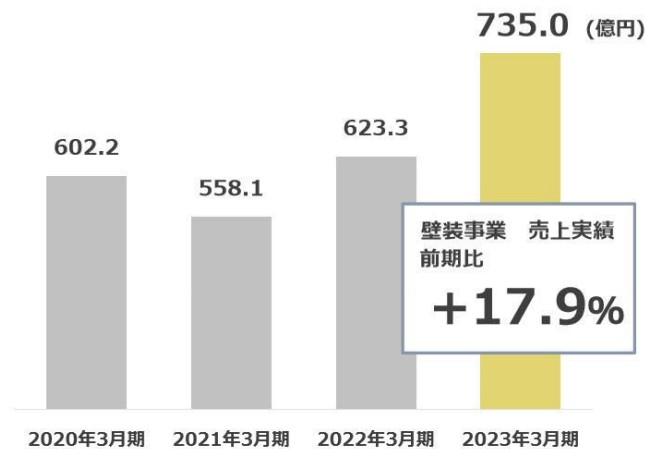
インテリアセグメント 壁装材売上状況

業界全体の壁装材出荷数量 前期比

(2022年4月 - 2023年3月)

▲3.3%

出典：一般社団法人日本壁装協会



- ・量産壁紙「SP」が引き続き堅調を維持
- ・ガラスフィルム見本帳「クレアス」や粘着剤付化粧フィルム見本帳「リアテック」において、営業部門間での連携が奏功し、好調に推移

sangetsu

※2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

©Copyright Sangetsu Corporation

12

市場全体としては厳しい状況でありましたが、その中で個別商品の数字を見てまいりますと、壁装材に関しては、業界団体の発表として出荷数量としてマイナス3.3%、私どもの売上としてはプラス17.9%、概ね値上げによるものと申しあげてもよろしいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

インテリアセグメント 床材売上状況

業界全体の床材出荷数量 前期比

(2022年4月 - 2023年2月)

+0.5%

クッションフロア
(住宅向け) **▲1.0%**

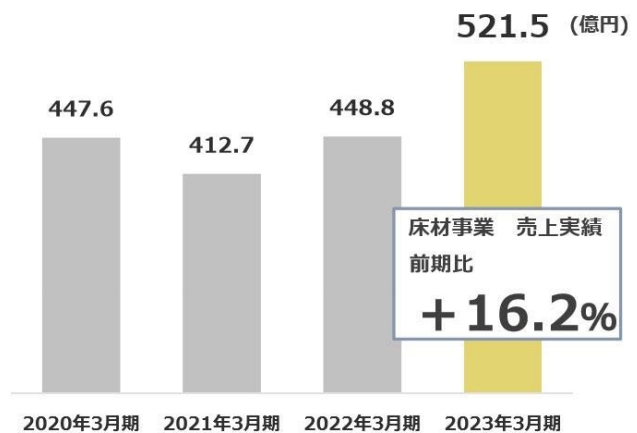
フロアタイル
(需要の約5割が住宅向け) **+6.9%**

長尺シート
(医療・福祉メイン) **+5.7%**

カーペットタイル
(オフィスメイン) **▲3.9%**

タフテッドカーペット
(ホテル・住宅メイン) **▲6.9%**

出典：一般社団法人日本インテリア協会（塩ビ系床材）
日本カーペット工業組合（繊維系床材）



- ・ビニル床タイル見本帳「フロアタイル」が堅調に推移
- ・低環境負荷商品を収録したカーペットタイル見本帳「NT700」が、環境配慮に向けた市場のニーズを捉え、オフィスを中心に採用が進んだ

sangetsu

※2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

©Copyright Sangetsu Corporation

13

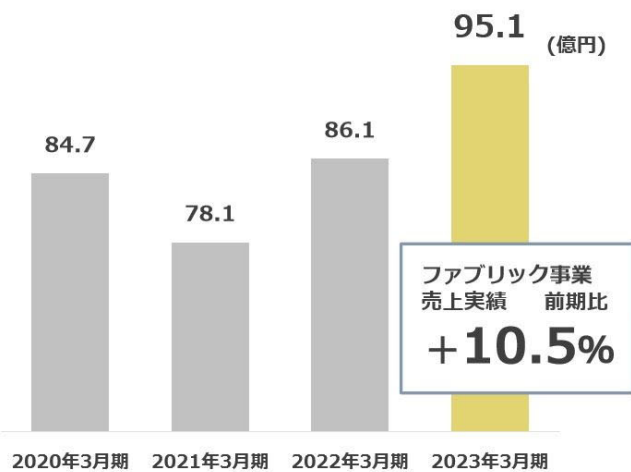
続きまして、床材にはさまざまな種類がありますが、全体としては0.5%のアップ。それに対して私どもの売上は16.2%増でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

インテリアセグメント ファブリック売上状況



- ・カーテン見本帳「ストリングス」が売上をけん引
- ・B to C事業を担うグループ会社サンゲツヴォーヌにおいては、EC事業やビルダー向け販売事業を通じた積極的な営業活動に努めた

sangetsu

※2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。
©Copyright Sangetsu Corporation

14

ファブリックは業界団体の発表数字はありませんが、私どもの売上は10.5%の増という結果でありました。

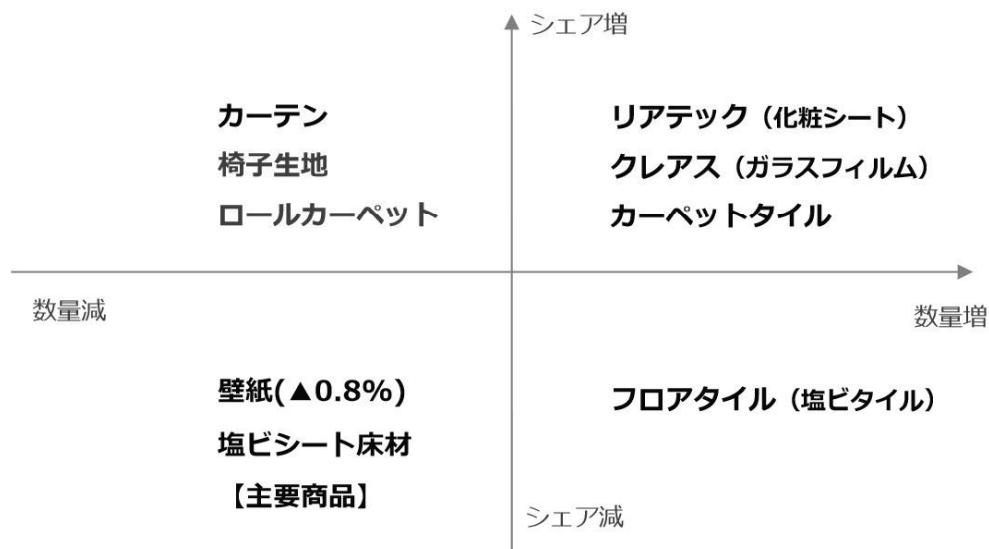
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



インテリアセグメント 値上げの数量面の影響

すべての商品において総利益増



sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

15

2021年9月に引き続き、2022年にも2回の値上げを行う中で、皆さまからお尋ねを受けますのは、それによって数量、業界シェアはどのような影響を受けたのかという点です。今回はその結果を簡単にまとめております。

壁紙、床材、ファブリックの要素をさらに分け、各商品別のシェアと数量の影響をここで示しております。

数量も増え、シェアが増えたのは「リアテック」と呼んでいる、硬質塩ビシートでございます。そしてガラスフィルムの「クレラス」、「カーペットタイル」の三つの商品群に関しては、数量も増え、商品も増えております。

一方で、数量も減り、シェアも減ったのが、壁紙と塩ビシート床材です。塩ビシート床材は住宅用と非住宅用がありますが、塩ビシート床材が数量・シェアともに減少しました。

この二つの商品群は私どもにとって主要商品と呼べるものです。この中で壁紙の市場シェアにおいては、業界団体の発表数字と弊社の出荷数量等を比較し、およそ0.8%のシェア減少と理解をしております。私どもは壁紙において50%強のシェアを持っています。この中で0.8%というシェア減は、リーディングカンパニーとして率先をして値上げを行ったこと、それに対して競合から時期お

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



よび値上げ幅でさまざまな対抗策が取られた中においては、やむを得ない程度の減少、もしくは健全な程度の減少幅であると認識をしております。

一方で、数量は増加したけれども、シェアが減少したのが塩ビのフロアタイルです。これは、見本帳の発刊から時間が経っていることも要因として挙げられるかと思います。

さらに、数量は減少したけれどシェアが増加したのが、カーテン・椅子生地・ロールカーペットという商品群です。これらについては、私どもの数量は減少したものの、それ以上に該当商品における市場の勢いがなく、シェアは増加したものとなります。

全体としては、全ての商品において総利益は増加しております。数量減、シェア減という最も好ましくない部分においても、一定程度の減少にとどめたという点においては、適正な値上げ、そしてシェアの維持ができたと全体の総括をしております。

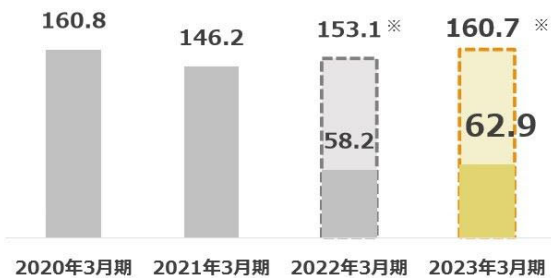
サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



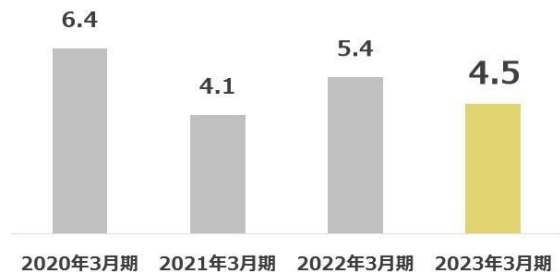
エクステリアセグメント状況

売上高（億円）



※ 収益認識基準適用：無

セグメント利益（億円）



- ・株式会社サングリーンにおける、リフォームに重点を置いた営業活動や、非住宅分野における年度末需要等により、売上が伸長
- ・同社スペースクリエーション事業本部によるエクステリアの空間提案活動も拡大
- ・一方、成長戦略に基づく専門人材の拡充や事業体制の整備等の施策により、利益は減少

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

16

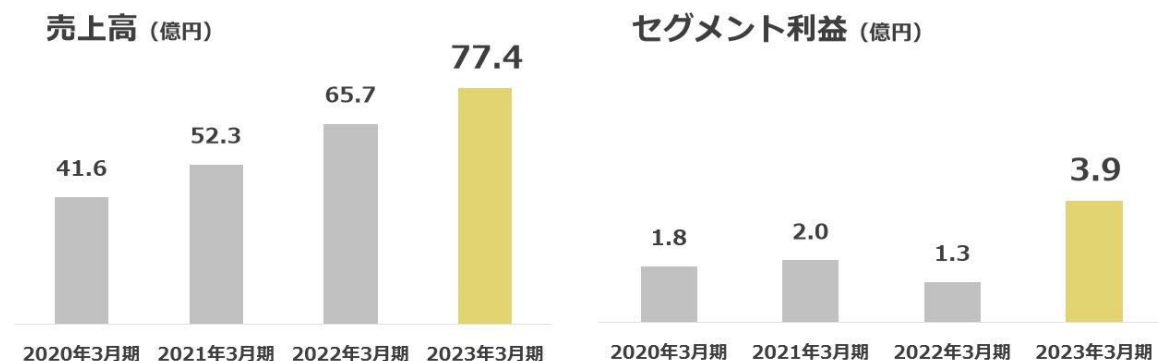
他のセグメントについてご説明いたします。エクステリアセグメントについては、収益認識基準の適用によって大きく売上が減少しておりますが、コロナ後の減少が従来のレベルまで回復してきています。セグメント利益は減益となっておりますが、成長戦略に基づく施策を実行する中での販管費増に伴っての減益です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



スペースクリエーションセグメント状況



- ・フェアートン株式会社においては、首都圏や関西エリアにおける大型物件が完工し、売上に寄与
- ・サンゲツとの連携による営業活動を強化、物件獲得や新規顧客の開拓が進む

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

17

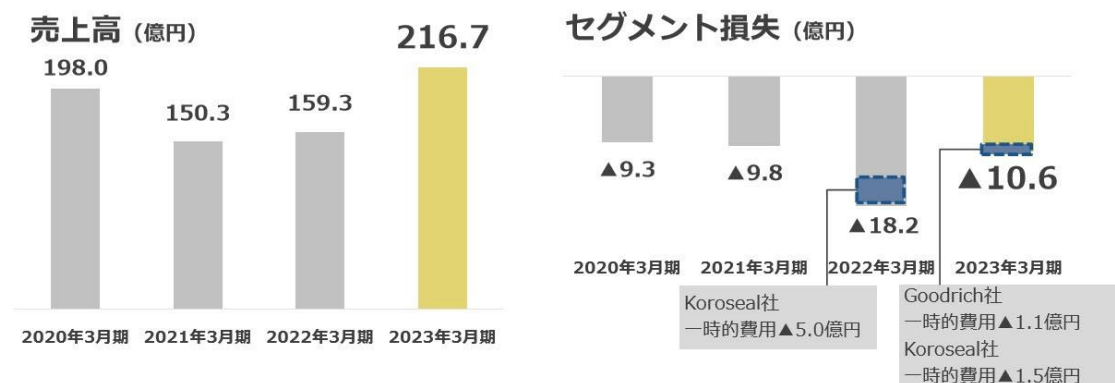
続いて、スペースクリエーションセグメントですが、売上高は年々確実に増加をしております。しかしながら、この主な要因は施工を担うグループ会社の売上拡大です。サンゲツの中のスペースクリエーション事業部の売上も増加しておりますが、これらによりセグメント利益も増加し、増益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



海外セグメントの状況



- ・北米市場では、自社製造壁紙が好調に推移したほか、大型物件への納品が売上に寄与。一方、在庫調整のための製造量減少による生産効率の低下や、業績連動賞与の増加に伴う販管費の増加等が、収益の減少要因に
- ・東南アジア市場では、経済活動の回復基調を受け、各拠点での営業活動が正常化し、堅調に推移
- ・中国・香港市場は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、依然として厳しい状況

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation

18

課題である海外セグメントに関しては、売上高は 216 億 7,000 万円と、現地通貨建てでも一時期の落ち込みから回復してきておりますが、売上高上昇の一番大きな要素は円安となります。セグメント損失として 10 億 6,000 万円、依然として大きなセグメント損失となっております。

このうち、2 億 6,000 万円が一時的な費用、経常的な損失が約 8 億円となっています。一昨年度のセグメント損失 18 億 2,000 万円、このうち経常的な損失 13 億 2,000 万円に比べると減少したとはいえ、依然として大きな損失であり、改善に取り組んでおります。

以上が昨年度の決算の概況です。引き続き、今年度の業績予想に関しても、簡単にご説明を申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

2024年3月期 連結業績予想の前提

連結業績予想の前提

【外部環境・需要】

- ・住宅：新築/リフォームともに弱含みで推移
- ・非住宅：新築は21年度着工分が寄与、リニューアルは増加

【プラス要因】

- ・数量回復
- ・米国・東南アジア事業の改善

【マイナス要因】

- ・売上原価（仕入価格、物流費）の増
- ・賃金アップやキャリア採用、教育・研修費増加による人件費増

【値上げ】

- ・コスト上昇に対する価格転嫁は前提に含まず

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation 20

今年度の業績予想の前提についてご説明します。まず、外部環境として日本の建築市場ですが、住宅に関しては新築/リフォームともに弱含みで推移する前提です。非住宅市場においては、21年度の着工の回復が内装工事等においてもプラスで寄与する見通しとしており、リニューアルも増加する予想を立てております。

直接的なプラス要因は、日本市場における数量の回復に加え、米国・東南アジア事業の収益の改善を予想しております。

直接的なマイナス要因は、原材料価格の高騰に伴う仕入価格が引き続き上昇していることに加え、物流費の上昇が挙げられます。一方で、グループ各社における賃金アップやキャリア採用、教育・研修費等を増加させる中で、販管費が大幅に上昇する予想をしております。

尚、これらのコストアップ要因に対して、価格転嫁、さらなる値上げは前提としておりません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2024年3月期 連結業績予想

	2023年3月期	2024年3月期 (億円、%)					
	実績(A)	通期予想 (B)	前期比 (B-A,B/A)	上期予想	前期比	下期予想	前期比
売上高	1,760.2	1,830.0	+69.7 (+4.0%)	875.0	+57.7 (+7.1%)	955.0	+12.0 (+1.3%)
売上総利益	563.7	535.0	▲28.7 (▲5.1%)	261.0	▲0.6 (▲0.3%)	274.0	▲28.0 (▲9.3%)
(利益率)	(32.0%)	(29.2%)		(29.8%)		(28.7%)	
販売費及び 一般管理費	360.9	385.0	+24.0 (+6.7%)	188.0	+16.3 (+9.5%)	197.0	+7.7 (+4.1%)
営業利益	202.8	150.0	▲52.8 (▲26.0%)	73.0	▲16.9 (▲18.9%)	77.0	▲35.8 (▲31.7%)
(利益率)	(11.5%)	(8.2%)		(8.3%)		(8.1%)	
経常利益	206.9	154.0	▲52.9 (▲25.6%)	75.0	▲17.6 (▲19.1%)	79.0	▲35.2 (▲30.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	140.0	105.0	▲35.0 (▲25.0%)	51.0	▲11.3 (▲18.2%)	54.0	▲23.6 (▲30.5%)

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation 21

以上の前提に基づきまして、今期の予想としては、売上高 1,830 億円、売上総利益 535 億円、販管費 385 億円、営業利益 150 億円、経常利益として 154 億円、当期純利益 105 億円の予想としております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



セグメントの変更について

2024年3月期の期首より、報告セグメントを以下の通り3区分に変更いたします。

変更前	変更後	関連グループ会社
インテリア	国内インテリア	クレアネイト株式会社 フェアトーン株式会社 株式会社サンゲツヴォーヌ 株式会社サンゲツ沖縄 株式会社クロス企画
スペースクリエーション		
エクステリア	国内エクステリア	株式会社サングリーン
海外	海外	Koroseal Interior Products Holdings, Inc. Goodrich Global Holdings Pte., Ltd. Goodrich Global Limited

sangetsu

©Copyright Sangetsu Corporation 22

セグメントにつきましては、従来、インテリア、スペースクリエーション、エクステリア、海外としておりましたが、組織の再編を行い、インテリアとスペースクリエーションを統合して「国内インテリア」とし、これに加えて「国内エクステリア」、「海外」と、三つのセグメントとして今後管理してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント別業績予想

		2023年3月期	2024年3月期						(億円、%)
		実績※	通期予想	前期比	上期予想	前期比	下期予想	前期比	
国内 インテリア	売上高	1,479.8	1,535.0	+55.1(+3.7%)	730.0	+36.2(+5.2%)	805.0	+18.8(+2.4%)	
	営業利益	210.9	146.0	▲ 64.9(▲30.8%)	73.5	▲ 22.1(▲23.2%)	72.5	▲ 42.8(▲37.1%)	
国内 エクステリア	売上高	62.9	67.0	+4.0(+6.5%)	33.0	+4.0(+14.0%)	34.0	+0.0(+0.1%)	
	営業利益	4.5	4.0	▲ 0.5(▲11.2%)	1.5	▲ 0.1(▲11.6%)	2.5	▲ 0.3(▲10.9%)	
海外	売上高	217.5	228.0	+10.4(+4.8%)	112.0	+17.3(+18.3%)	116.0	▲ 6.9(▲5.6%)	
	営業利益	▲ 12.6	0.0	+12.6(-)	▲ 2.0	+5.1(-)	2.0	+7.5(-)	
セグメント間 取引調整	売上高	▲ 0.1	-	-	-	-	-	-	
	営業利益	▲ 0.0	-	-	-	-	-	-	
合計	売上高	1,760.2	1,830.0	+69.7(+4.0%)	875.0	+57.7(+7.1%)	955.0	+12.0(+1.3%)	
	営業利益	202.8	150.0	▲ 52.8(▲26.0%)	73.0	▲ 16.9(▲18.9%)	77.0	▲ 35.8(▲31.7%)	

sangetsu

※2024年3月期の期首より、報告セグメントを4区分から3区分に変更したため、2023年3月期の実績は変更後のセグメント区分に組み替えた参考数値となります。

©Copyright Sangetsu Corporation

23

セグメント別の業績予想ですが、国内インテリアは売上高 1,535 億円、営業利益 146 億円と、営業利益においては昨年度比 65 億円の大幅な減益予想としております。内訳は仕入価格、原材料のアップによるコストアップ、さらに販管費の拡大が大きな要因です。

国内エクステリアは売上高 67 億円、営業利益は 5,000 万円減益の 4 億円としています。これはサングリーンにおける成長戦略の実行におけるコストアップが要因となります。

海外は売上高 228 億円、営業利益はブレイクイーブンにすることでゼロという予想です。

合計といたしまして、連結売上高 1,830 億円、営業利益 150 億円の予想であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

